

東北大豆セミナー

優良事例紹介

令和3年度全国豆類経営改善共励会(大豆家族経営の部)

農林水産大臣賞受賞

つがる市大豆生産者

野呂 修聖

聞き手: 青森県 農林水産政策課

(土地利用型農業革新支援専門員)

鈴木 晃



青森県つがる市

- ・津軽平野の北部中央から西側に位置
- ・大豆作付面積※1,290ha(県全体の25%)
【青森県全体5,070ha】
- ・田耕地面積※11,200ha(県全体の14%)
【青森県全体79,200ha】

※ 大豆作付面積、田耕地面積はR3年統計値

青森県を代表する穀倉地帯



生産状況

● 作付品目 【R3年産】

・大豆12ha

(おおすず7haのほか、シュウ
リュウ など)

・水稲12ha

・ブロッコリー0.7ha

面積 (ha)

R3 12.2

R2 11.9

R元 9.4

単収 (kg/10a)

R3 271

R2 234

R元 224

上位等級比率 (%)

R3 98

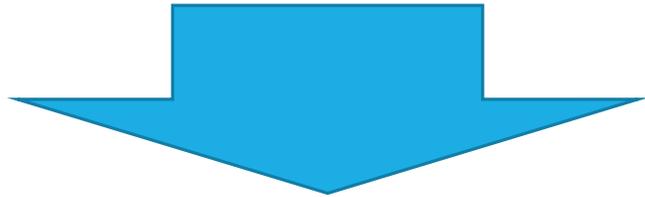
R2 71

R元 96

野呂氏 県平均 全国平均

栽培上の特色1 (作業分散のための取組)

- 晩播狭畦栽培を導入



作業の分散を図り、安定生産を実現



栽培上の特色2(土壌改良、排水性改善)

- 土壌診断やほ場条件、前年の生育状況を考慮した土壌改良資材と施肥の施用
- 堆肥化した稲わらやくず大豆等による土づくり
- 籾殻暗渠等の排水設備の点検・修復を欠かさない



天候の影響を受けにくい生産を実践



栽培上の特色3(は種)

- スタブルカルチ→アッパーロータリーで耕起
- 下層は荒く、上層は細かい2層の土壌構造に仕上げ、は種床を均一にしている



出芽の安定、除草剤による抑草効果の向上



栽培上の特色4(雑草管理)

- 雑草の状況は、2回目の中耕作業で確認し、茎葉処理型除草剤の選択を見極める
- 土壌処理型除草剤を効かせるほ場づくりが重要



経営上の特色1 (大豆規模拡大のために水稲省力化)

- 水稲、大豆を基幹とし、特に大豆を経営の柱としている。
- 大豆の規模拡大のため、水稲の省力化に取り組んでいる(無代かき栽培、乾田直播栽培、鉄コーティング湛水直播栽培など)。



経営上の特色2（ほ場のローテーション）

- 大豆・水稲・ブロッコリーによるローテーションに取り組む。ブロッコリー跡に大豆を晩播狭畦栽培することで農地を有効活用
- 水稲、大豆の作付年数は、春先のほ場の状況を見て臨機応変に対応
- 作業効率化のためほ場を1haに大区画化

新たな経営の柱を模索

- 高収益作物の一つとして「毛豆」に注目
- 事業で枝豆収穫機を導入



最後に

